

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

# にしあいづ物語100選 その57

文：田崎 敬修

## ともこ 友子の墓

常泉寺の墓地の片隅に地元でない人たちのお墓がひっそりと並んで建っています。このお墓は友子の墓ともこといい、鉱山労働者のお墓です。西会津では黒沢地区を中心に多くの鉱山が古くから開発されてきました。鉱山の仕事は命懸けで、専門的な技術から日常生活まで相互扶助がどうしても必要でした。時代が新しくなると現在の労働組合的性格を含みながら一山一家主義の共同体組織となり、この組織を友子同盟・友子組合と称し加入者および組織を一般的に「友子」と呼びました。

鉱山労働者から坑夫志望者選び、正月やお盆に近隣鉱山の親分衆立会で兄分・親分を決めて坑夫取立式が行われ、ここで「坑夫取立出世免状」を受けて初めて友子として認められ、技術習得や友子社会のしきたり・習慣体得のために3年3月10日の厳しい修練に励



友子の墓



み、やがて職兄・職親となって後輩を指導できるようになりました。失業すると「坑夫取立出世免状」を持って一宿一飯の恩義を大切に全国を渡って行っていました。

親分が坑夫を集め、労務や労賃まで面倒をみる特殊な雇用制度は鉱山側にとっては非常に都合のよいものでした。「友子」という特殊な連帯性は、坑夫の親分への忠誠心と親分が坑夫を自分の子ども以上に面倒を見るという関係性を生み出したのです。常泉寺の友子の墓は、大正3年(1914)と翌4年に起こった山口鉱山の犠牲者の友子と明治39年(1906)に尻高鉱山で急死した友子の墓を親分・兄弟分が建立・供養したものです。埋葬された友子の出身地は、山形県亀北田村(現在の大石田町)・福島県日橋村(現在の会津若松市)・秋田県大野村(現在の北秋田市)でした。

## 今月の表紙

今月は、以前撮影された飯豊山からのご来光です。当初の予定では、町内の別の場所から日の出を撮影しようと考えていたのですが、条件に恵まれず断念しました。今年こそは撮影できるように頑張っていきたいです。

## 編集後記

明けましておめでとうございます。令和4年も皆さんにとって、素晴らしい1年になりますよう、心よりお祈りいたします。

令和3年は皆さんにとってどんな年だったでしょうか？コロナ禍も2年目に突入し、ワクチン接種など感染予防対策も進められています。イベントの開催も徐々に緩和され、紙面にもにぎやかな様子が戻りつつあります。令和4年も、元気な西会津町の様子を多くの皆さんにお伝えできるように、果敢にトライしていきたいと思えます。(秦)